

看護年報の発刊にあたって

広島市立の4病院が平成26年に地方独立行政法人化して6年が経過し、元号が平成から令和へと年度中に移行という変化の年であった、第2期中期計画期間の2年目が終了しました。

平成30年度から、本部事務局の経営管理課の中に「看護管理担当」を新設し、これまで4病院で個別に行われてきた看護師の募集、育成、職場環境の改善などを一元管理する体制の整備を進めてきました。採用試験への推薦制の導入や、2交代制も視野に入れた勤務体制の見直し、クリニカルラダーの見直し、マネジメントラダーの推進などについて、機構4病院を俯瞰できる立場から、4病院の看護部とともに検討してきました。



平成31年度の新たな取り組みとしては、夜勤要員の確保、育短者間の公平性、通常勤務への円滑な復帰といった観点から育児短時間勤務者の夜勤の見直しや、機構看護職員として求められる職務遂行能力の取得を目的とした「新師長研修」などの節目研修の導入が挙げられます。

また、安定した経営基盤の策定、すなわち健全な収支状況の維持は、機構全体としての最大の課題ですが、平成30年度の収支は、機構全体で約4.1億円の黒字となったものの、平成31年度は残念ながら再び赤字となる見込みです。

「利益なくして発展なし」です。独立行政法人として、看護職員をはじめ機構職員が一丸となってこれまで以上に経営改善に取り組む必要があると考えています。

今回の年報が第6刊となりますが、毎年の看護部門の活動の貴重な記録であるとともに、広島市立病院機構の歴史を綴る一面もあり、今後も継続して発刊されることを願っています。

理事長 影本 正之